

2013- 日本藻類学会 新体制

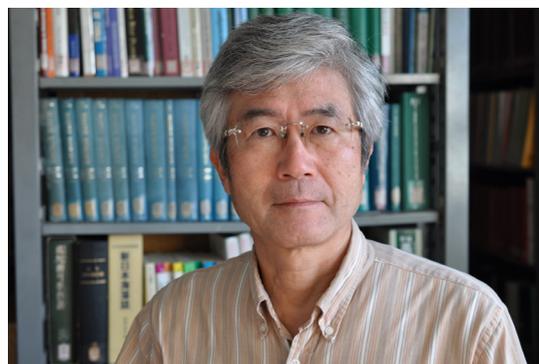
ご挨拶

日本藻類学会は1952年11月に設立された世界でも最も古い藻類学関連学会です。丁度満60才ということになります。当初は日本植物学会大会時に分科会を開催する程度でしたが、会誌は年3回定期刊行していました。山田幸男博士の「サメズグサの正体」が第1巻1号の巻頭論文です。「サメズ」が東京鮫洲なのと、東京湾ではもう見られないんだろうなという感傷をもって読んだ思い出の論文です。私が本学会に入会した後、1977年から独自の大会を開催できるようになり、本年度の山梨大学大会で37回目となります。当時大会に参加するのはとても光栄なことで、わくわくした気持ちになりました。当初から参加していて、現在まで、最も参加したい大会となっております。

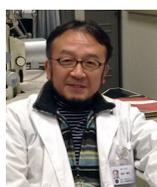
さらに本学会が飛躍的に発展を遂げたのは、1995年(43巻)から英文誌(季刊)、和文誌(年3回刊行)に分けて発刊されるようになったことです。現在は英文誌

Phycological Research は国際的に認められる雑誌です。学会員の研究分野も、藻類を扱う分類系統、形態、生態等の基礎分野、および水産、教育などの応用分野だけでなく、環境、エネルギー、工学などとの境界領域にまで多様化しています。生物多様性や絶滅種の問題にも大きく絡んできています。

日本藻類学会は自然史学会連合、分類学会連合にも加盟し、当該学会の存在の意義をより強く学界、社会に働きかけています。藻類を含む生物が、私たちを取り囲む環境にいかにか大きな影響を及ぼしているかを、発信していかねばなりません。これを主務と考え、微力ながら2年間役目を果たしたいと思っております。皆様のご協力を得られれば誠に幸いです。まずは、藻類を「もるい」と読ませない。海藻を「海草」と書かせない。これから始めなければならないかもしれないかもしれません。新役員、新編集長ならびに、継続して役員、編集長をお引き受けいただいた方に御礼申し上げるとともに、お力添えをお願いする次第です。



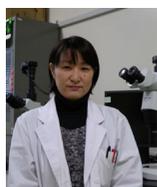
会長：田中次郎
所属：東京海洋大学 大学院海洋科学技術研究科
研究対象生物種：藻類
研究分野：分類学



庶務幹事：鈴木秀和
所属：東京海洋大学 大学院海洋科学技術研究科
研究対象生物種：珪藻
研究分野：分類学



庶務幹事：阿部信一郎(海外担当)
所属：水産総合研究センター 日本海区水産研究所
研究対象生物種：海藻(アカモク)
河川付着藻類、藻食動物(アユ)
研究分野：生態学



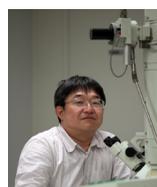
庶務幹事：関田諭子(国内会員事務担当)
所属：高知大学 総合科学系黒潮圏科学部門
研究対象生物種：渦鞭毛藻
研究分野：細胞生物学



庶務幹事：豊田健介(広報担当)
所属：慶應義塾大学 生物学教室
研究対象生物種：珪藻類
研究分野：藻類感染性ウイルス
珪藻類の形態および分子系統学的分類



庶務幹事：吉川伸哉(外国会員事務担当)
所属：福井県立大学 海洋生物資源学部
研究対象生物種：アカモク
研究分野：植物生理学



会計幹事：松岡孝典
所属：日本歯科大学 生命歯学部
研究対象生物種：珪藻
研究分野：分類、微細形態